

いかにロックフェラーが、米軍による子供虐殺を隠ぺいしたか

州兵が数十名の女性や子供を虐殺したコロラド州事件

【訳者注】紹介されているのは 100 年以上前の事件で、この時代、こんな事件は珍しくなかったかもしれない。しかし、これが現在まで続いていて、プロパガンダという「彼ら」にとって不可欠の悪質な手段が、いかに発明されたかが、よく説明されているところに注目すべきである。プロパガンダは、薬の広告のようなものではない。それは国家による、マインドコントロールの手段であり、その発明は、知能犯罪史の一コマとして認識すべきものである。今日それは、ますます悪質化しており、自分たちがやっておいて、Putin did it (プーチンがやった)と囃し立てるやり方は、パターン化している。これは、一方では笑い種であると同時に、新聞などでは大真面目に受け取られている。

プロパガンダについては、このサイトで何度か取り上げている。“プロパガンダの父”と呼ばれるエドワード・バーネイズ (Bernays) については、「アメリカのファシズム小史」<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/161023.pdf> や、「見えない政府の内側」<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/161031.pdf> を、参照願いたい。

Daniel Newton, www.neonnettle.com

April 28, 2018



1,200 人の人々が、女性や子供とともに、家族全体でテントに住んでいた。

1914 年の 4 月 19、20 日、コロラド州で、鉱夫たちのストライキが起こったとき、州兵が何ダースもの子供たちを虐殺したが、この事件はあまりにも凄惨と考えられ、ジョン・D・ロッ

クフェラーの指図によって、メディアでは隠ぺいされた。

死者の中に、少なくとも4人の女性と、11人の子どもがいたことは確実である。

労働者たちがストライキに入ると、彼らは、この小さな鉱山の町の中の、会社の所有する社宅から直ちに追い出された。

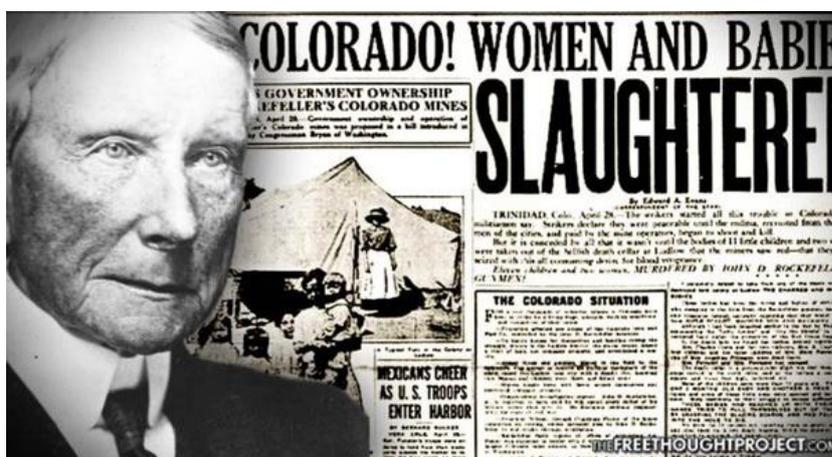
彼らは町の傍に、大きなテントのコロニーを作り、給料と労働の条件の改善を求めて抗議した――が、ほとんど効果はなかった。

ジョン・D・ロックフェラーの「コロラド燃料および鉄鋼会社」の施設のすぐ外側、このテント村の最も大きいテントに、彼らの基地があった。

女性や子どもを含む家族が、総勢1,200人で、ここにテント生活をしていた。

ストライキが数か月続いたのちに、虐殺が起こった。しかしこの緊張は、ストライカーと軍隊の間で高まっていることが明らかだった。

やがてそれは頂点に達し、ある日、州兵たちが、このテント村を見下ろす丘の上に機関銃を構え、罪のない男や女、子どもたちに向けて発砲し始めた。



鉱夫たちの反乱のニュースが広がると、彼らと石油会社との戦争が始まった。

すると兵士たちはテント村へ下りてきて、残ったテントに火をつけ、多くの罪のない者たちを焼き殺した。

ニュースが広がると、鉱夫全体が立ち上がり、石油会社や鉱山所有者たちとの戦争が始まり、

彼らは輸出を止めようと、鉄道を破壊した。

最終的には、軍隊が導入されて反乱は終わり、抗議者たちは住宅と仕事に戻った。

しかし、この事件のニュースが広がり始めると、それはロックフェラーの信頼を傷つけ、ますます多くのデモが行われた。

このような民衆の受け取り方に対処するために、ロックフェラーは、PR (Public Relations) の草分け的存在 Ivy Lee を雇用した。

リーは、エドワード・バーネイズ (Edward Bernays) の影響を受けた初期の人物で、バーネイズは後に、*Propaganda* という独裁者や貴族のための、マインドコントロールの悪名高い本の編著者になっている。

バーネイズは、彼にふさわしい「プロパガンダの父」という名で呼ばれている。

ロックフェラーがリーを選んで、この課題を解決しようとしたのは、リーが何年か前に、**企業や連邦政府と小作階級との相互関係のあり方を、革命的に一変させる方法を、開発していたことを知っていたからだ**と思われる。

1906年、ある恐ろしい列車事故が、アトランティック・シティで起こったとき、リーは、この会社に、彼らの側のストーリーを新聞社に提供することを勧めた。これが、まさに最初の「ニュース・リリース」と言われるものだった。

この惨事は、鉄道会社の側の不注意によって引き起こされ、数百人の人々に被害を与えたものだった。そこで、このジャーナリズムの「リリース」は、**彼らの側のストーリーが最初に発表されることを狙って用いられた、ユニークな手段**であった。

この「プレス・リリース」戦略は大成功し、その2日後には、ニューヨーク・タイムズが、この会社の声明文を、一語一語、正確に印刷してくれた！

この種の狂ったやり方は、今日までつづいていて、“ニュース”リポーターは、調査ジャーナリズムの仕事をする代わりに、ホワイトハウスや Exxon (エクソンモービル) で彼らが何をしているかを、まさにそこから聞いて、そのまま繰り返すことになっている。

この Ludlow 虐殺事件から始めて、アイヴィー・リーは、ロックフェラー家族と彼らの組織

が、露骨にウソをついていることが明らかであるにもかかわらず、彼らの一般大衆のイメージを、一変させ始めた。

リーは、大衆ニュース速報を発行し、コロラド抗議事件で亡くなった人々は“レンジをひっくり返した”ことによる、ある家庭の出火によるものだと主張した——が本当は、州兵の兵士たちが故意に火をつけたものだった。

彼はまた、「マザー・ジョーンズ」と呼ばれる有名な労働組合の職員を、娼婦であり売春宿を営んでいるかのように言ったが、それは彼女が、この事件に国家的脚光をあてた、声による活動家だったことによる。

リーの提案により、ロックフェラーは、この事件から1か月後に、「ルドロー虐殺事件などなかった」と、断固として主張する声明を出した。

交戦が始まったのは、2つ小さな分隊が反乱を起こして、テント村全体の命を救おうと、絶望的な反撃を試みたためだった。

州の官憲や、戦略家に射殺された女性や子どもはいなかった。

人命が失われたのは深い問題ではあるが、法や財産を守り、虐殺に全くに責任のなかった人々に罪を負わせるのは、不当である。

しばらくの間は、リーとロックフェラー一族は、国家的なレベルで、この事件についての大衆の考え方を操作することができた。しかし、コロラドの多くの家庭をもつ人々は、すでに、この虐殺事件の背後の真実をよく知っていた。

究極的に、国家全体にうわさは広がり、義憤を掻き立て、議会の公聴会を開くまでの抗議に発展した。

予想されるように、議会公聴会では、全く何も解決されず、殺された子どもたちや鉞夫たちの遺族に、法の正義はもたらされなかった。

ロックフェラーの名の、一般大衆のイメージを回復するために、リーは、この一家が高度に目立つ寄付行為を多くの慈善団に行い、市民に現金を手渡している現実の写真を撮らせ、彼らはやさしく寛大であると人々に思わせるように、彼らに勧告した。

再び、戦略は功を奏し、PRを適用することによってロックフェラーの業績は、再活性化することができ、その後は、今日見られるような所にまで伸長した。

リーは、IG ファルベン企業や、German Dye Trust と呼ばれる代理会社を介する、ナチスとの取引によって、議会による調査を受けていた。

同様に彼は、外交問題評議会（CFR）の創始メンバーの一人である。

ルドロー虐殺は、しばしば闇に葬られる歴史的事件の一つである。そしてそれが指摘されるときは、普通それは、労働組合や労働法についての会話の背景にある。

これが、労働についての不和や、ストライキであることは確かだが、労働者、会社、それに政府の間の存在する力学は、しばしば無視されている。

——以上